

さいたま市教組情宣

さいたま市
教職員組合
(埼教組)

TEL 641-6763
FAX 648-3567
e-mail
saitama@kyouiku-net.org

2004.9.30(木)
No. 67

さいたま市教組はこの間、「指導力不足教員の取扱いに関する要綱」並びに「永年勤続退職教育関係者の表彰」に関する市教委交渉を続けて行いました。今回と次回的情宣で結果と関係記事を載せます。

指導力不足 教員を恣意 的に特定する ものではない

【組合】「指導力不足」とはどのようなことか。
【市教委】授業を適切に指導できない、ということだ。
【組合】指導力不足教員との判断が校長の恣意的なものになる危険性がある。
【市教委】指導力不足教員を恣意的に特定するものではない。

当該教員自身 が意見を表明する 機会を保障する

【組合】校長により指導力不足に該当すると思われた教員が、自分の意見を表明する機会を保障すべきだ。要綱の「申請に対して意見があると

判断基準表は 必ず使用する ということではない

【組合】要綱では「別に定める(中略)『判断基準表』に基づいて判断し」とあるが、要綱別表の「教員の指導力についての判断基準表」は使用すべきではない。基準そのものの客観性が疑わしく、また校長がさまざまな観点から総合的に判断することなく、安易に基準表を使用して判断する危険がある。

市教委が留意 事項を決め、 校長に示す

【市教委】判断基準表は、適正な運用に努めるということとで、必ず使用するものではないし、提出させるものでもない。校長が申請する際には、総合的な観点に立つて情報を収集しなければならない。

市教委が要綱を施行するにあたり、市教組は交渉を行い、市教委は九月三日付で留意事項を文書として発しました。組合としては、仙台市教委の例を上げ、「指導力不足」との名称を改めるよう指摘しましたが、今回は結論が出ませんでした。引き続き市教委との交渉を行います。

メールアドレス
が変わりました
saitama@kyouiku-net.org
です。情宣に対するご意見をお寄せください。また、情宣で取り上げて欲しいこと、職場の様子などメールお待ちしております。情宣担当者

(別表) 「教員の指導力についての判断基準表」

さいたま市の求める教師像 ◆「豊かな人間性と社会性」 ◆「強い使命感と教育への情熱」 ◆「幅広い教養と実践的な専門性」 を備えた常に学び続ける教師

1 学習指導	A・B・C・D	①指導計画に基づいた指導	ア学校で立案した指導計画に基づいて指導している。
・基本的知識や指導方法	A	②ねらいをもった分かりやすい指導	イねらいに基づいて何を指導するのかを明確にして指導している。
	B		ウ発問、指示が的確で、児童・生徒の学習状況を把握しながら指導している。
	C	③教科等の知識・技能	エ教材研究を行い、教材、教具等の準備や工夫をして授業を行っている。
	D	④児童・生徒の適切な評価	オ教科等の指導する内容やそれに関わる知識・技能がある。 カ教える内容に間違いがなく、児童・生徒の質問に答えることができる。 キ評価・評定を適切に行い、公正・公平である。 ク作品やプリント類、ノートなどの提出物を適切に処理している。
2 生徒指導	A・B・C・D	①児童生徒の立場に立った指導や内面への配慮	ア感情的にならず、やさしく指導ができる。
・児童生徒一人一人の自己指導能力の育成	A		イ共感的な生徒指導や一貫性のある指導を行っている。
	B		ウ児童生徒の行動を把握し、不在の児童・生徒等への対応も適切である。
	C	②児童生徒との人間関係の構築	エ児童生徒の人格を尊重し、常識を逸脱した言動や著つける発言をしない。 オ児童生徒の個性や家庭環境に起因する心の変化をつかんで指導している。
	D	③問題行動等への対応	カ児童生徒との人間関係を築き、児童・生徒に信頼されている。 キ児童生徒によってえこひいきせず、公平・公正な対応をしている。 ク生徒指導体制の中で共通理解・共通行動がとれる。 ケ児童生徒のトラブル等に対して、原因等の把握や適切な指導ができる。
3 その他	※該当する場合に○印を付す。		判断基準 A 優れた実践や行動がとれている B 通常の実践や行動がとれている C ときおり、支障をきたすことがある D 大いに、支障をきたしている
疾病等により教育指導、活動に支障をきたす			
上記以外の区分により教育指導、活動に支障をきたす			

教員の指導力についての判断基準表

さいたま市支部教育研究集会記念講演
日時 10月15日(金) 午後六時一五分開会
会場 市民会館おみや 小ホール
講師 村山士郎さん(大東文化大学教授)

それでも子どもは未来志向！佐世保小6女児殺傷事件を読む！



ほっと タイム

プロ野球選手会が七〇年の日本プロ野球史上初のストを実施しました。プロ野球の未来を真剣に考えているのは、機構側ではなく選手会であることは明白でした。選手会では世論の大きな支持を背景に前進的な回答を引き出し、2回目のストは回避されました。交渉の矢面に立つ古田選手会会長は疲れた体に鞭打って、全力でプレーし立派な成績を残しましたが、その真剣な姿に胸を打たれました。がんばれ古田会長。がんばれ選手会。